

# 令和6年度 事業報告

社会福祉法人 慶光会

## 【目次】

法人概要・・ P 1

リスクマネジメントの取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4

### <各事業所>

蒜山慶光園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6

グループハウスかわかみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8

デイセンターひるぜん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 10

ワークスひるぜん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 12

グループハウスひるぜん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 14

ワークスクらよし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 16

デイセンターまにわ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 18

グループハウスおちあい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 20

ワークプレイスマにわ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 22

真庭地域生活支援センター・・・・・・・・・・・・・・・・ P 24

### <公益事業等>

川上児童クラブ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 27

福祉有償運送・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 29

### <法人本部・部会・事務局>

事業所統括推進室・理事長室・・・・・・・・・・・・・・・・ P 31

労働開発室・就労調整部・実践検討部・・・・・・・・ P 32

生活支援部・総務部・経理部・・・・・・・・・・・・・・・・ P 33

## 【法人概要】

### 1. 法人基本情報（令和7年3月31日時点）

本部所在地	岡山県真庭市蒜山上福田1201番地8
理事長	柴田 智宏
電話	0867-66-4069
FAX	0867-66-4062
代表メールアドレス	info@keikokai.net
ホームページ	https://www.keikokai.net

### 2. 主な事業（令和7年3月31日時点）

事業所名	事業種別	定員	利用者数 (契約)	稼働率 (定員比)	管理者名
法人事務局					
蒜山慶光園	施設入所支援	30	29	96.4%	丸山 潤
	生活介護	40	38	89.2%	
	短期入所	1			
グループハウスかわかみ	共同生活援助（4ホーム）	30	30	94.5%	
デイセンターひるぜん	生活介護	20	19	87.7%	丸山 朝美
ワークスひるぜん	就労継続支援B型	20	26	90.5%	
グループハウスひるぜん	共同生活援助（7ホーム）	22	22	90.4%	北野 正樹
ワークスクラよし	就労継続支援B型	40	46	75.6%	
	・ワークスクラよし	30	35		
	・（従）ワークスふくよし	10	11		
川上児童クラブ	放課後児童健全育成事業	30	31		竺原 史郎
デイセンターまにわ	生活介護	20	15	61.0%	守屋 史一
	就労継続支援A型	10	4	35.0%	
グループハウスおちあい	共同生活援助	4	4	89.3%	
ワークプレイスマにわ	就労継続支援B型	40	52	69.5%	
	・ワークプレイスマにわ	20	36		
	・（従）ワークプレイスつやま	20	16		
真庭地域生活支援センター	一般相談支援 特定相談支援 障害児相談支援				妹尾 裕子

\*（従）従たる事業所

### 3. 評議員及び役員

評議員（8人）	坂手 修三	瀬島 完司
	土井 秀人	中村 聡
	長谷川 秀子	二若 敦善
	法華 教善	山本 廣志
監事（2人）	伊藤 貴宏	長尾 伸二
理事（6人）	柴田 智宏	中津 世待
	野崎 英俊	東山 美子
	福本 親吾	前田 尚志

### 4. 評議員会

開催日	議題	評議員（出席者数／総数）
令和6年 6月22日 (定時評議員会)	令和5年度決算、監事監査報告	8／8
12月6日 (決議の省略)	定款変更	8／8
令和7年 3月22日	定款の一部改正	7／8

### 5. 理事会

開催日	議題	理事 (出席者数／総数)	監事 (出席者数／総数)
令和6年 6月5日	(1) 令和5年度事業報告、決算報告、 監事監査報告 (2) 令和6年度第一次補正予算 (3) 運営規程の一部改正 (4) 令和6年度夏季賞与の支給 (5) 定時評議員会の招集決定	5／6	2／2
10月26日	(1) ワークスくらよし従たる事業所移転 (2) 令和6年度第二次補正予算 (3) 苦情解決第三者委員の業務における 交通費の支給 (4) 評議員会の開催について	4／6	1／2
12月11日 (決議の省略)	(1) 休職中及び休業中の賞与の取り扱い (2) 令和6年度冬季賞与の支給	6／6	2／2

<p>令和7年 3月8日</p>	<p>(1) 地域活動支援センター開設 (2) 定款の一部改正 (3) 令和7年度法人組織 (4) 令和7年度管理者の任免とその他の重要な人事 (5) 令和7年度昇任、正職登用 (6) 給与規程の一部改正 (7) 経理規程の一部改正 (8) 運営規定の一部改正 (9) 苦情解決に関する規程の一部改正 (10) 年度末賞与の支給 (11) 評議員会の招集の決定</p>	<p>5 / 6</p>	<p>2 / 2</p>
<p>3月22日</p>	<p>(1) 第三次補正予算 (2) 令和7年度事業計画 (3) 令和7年度予算 (4) 育児・介護休業規程の一部改正 (5) 就業規則の一部改正 (6) 地域活動支援センター運営規程 (7) 評議員選任・解任委員の補充選任</p>	<p>6 / 6</p>	<p>2 / 2</p>

## 6. 監事監査

- ・令和6年5月23日

## 7. 苦情解決第三者委員会

- ・令和6年12月7日

## 【リスクマネジメントの取り組み】

### 1. 法人全体の取り組み

#### (1) 虐待防止と人権擁護

- ・「虐待防止セルフチェック」を全職員を対象に実施し、各事業所と管理会議で結果を共有した。権利擁護の視点から自分自身の実践と他職員の実践を点検する機会となった。
- ・虐待防止委員会主催の虐待防止、身体拘束適正化研修を開催した。研修ではグループワークもを行い、職員同士で意見を出し合い論議することで虐待防止や人権擁護に対する意識の向上につながった。

#### (2) 災害対策

- ・災害BCP（事業継続計画）研修会を開催した。災害BCPの周知と指揮系統や災害発生時の確認事項について机上訓練を実施し、災害発生時に迅速に対応できるよう理解を深めた。

#### (3) 感染症対策

- ・上半期には全職員を対象に感染症対応BCP（事業継続計画）研修会を開催した。感染症対応BCPの周知と感染防止対策訓練を実施し、感染防止に対する理解を深めた。下半期にも入所施設とグループホームを対象に感染防止対策研修会を開催し、感染防止対策への意識の向上を図った。

### 2. 各事業所共通の取り組み

#### (1) 防火避難訓練の実施

- ・各事業所で年1回以上、消防にも協力してもらい通報も含めた防火避難訓練を実施した。

#### (2) 救急蘇生法講習

- ・緊急時の迅速な対応につながるよう各事業所で消防署や日本赤十字社へ講師を依頼し、救急蘇生法講習会を開催した。

#### (3) 事故、ヒヤリ・ハット

- ・各事業所で内容の共有と改善策の検討を行い、決められた改善策の実施を徹底した。毎月開催している管理職の会議で他事業所の事故報告も共有し自事業所での事故防止につなげた。

## 【職員教育】

### 1. 法人全体の取り組み

- ・虐待防止、人権擁護、災害BCP、感染症対応BCPについては、各委員会が研修会を開催した。
- ・正職員を対象に、外部施設への見学も実施した。見学先は精神科病院（3病院）、国立療養所長島愛生園、他法人（2法人）を訪問した。特に他法人の見学では他法人の実践を知ると共に、慶光会の実践の良い部分を再認識する機会となった。
- ・入職時の新入職員研修と3ヶ月毎に振り返りを行う新任職員研修を開催した。来年度に向けて、正職員を対象とした教育体制の整備にも取り組んだ。

### 2. 各事業所共通の取り組み

- ・法人外研修の積極的な参加と、事業所内での必要な事柄についての勉強会を開催した。

### 3. その他

- ・管理職を対象にハラスメント研修を開催した。ハラスメント事例の報告は無かった。

# 各事業所

# 蒜山慶光園

## 施設入所支援・生活介護・短期入所

### 第1. 利用者概要（令和7年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分：5.3（小数点第2位切り捨て）

(人)	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	その他	計
男性	10	6	1	0	0	0	0	17
女性	7	1	3	1	0	0	0	12
計	17	7	4	1	0	0	0	29

#### 2. 年齢・男女別平均年齢：51.2歳（最年少：28歳、最高齢：90歳）（小数点第2位切り捨て）

(人)	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	1	7	2	4	2	0	1	17
女性	0	1	4	1	3	2	1	12
計	1	8	6	5	5	2	2	29

#### 3. 入退所の状況

(人)	新規利用	退所	退所理由
施設入所	2	3	死亡3件（入院中の死亡、持病の悪化、窒息）
生活介護	3	3	同上
付属事業（短期入所）	7		

### 第2. 作業内容

- ・生活介護（れんげ班・ほっこり）：小動物のトイレ砂の袋詰め

### 第3. 職員配置（令和7年3月31日時点）

(人)	施設長 管理者	サービス 管理責任者	看護師	生活支援員	管理栄養士	計
常勤換算	1	1	1.6	19.2	1	23.8 （管理者兼務を除く）

#### 第4. 運営方針・重点課題への取り組み

##### 1. 利用者理解をベースに、具体的な実践までを検討できるケース会議を行う

- ・各班で課題となっている困難ケースを中心にケースを選定し、ケース会議を開催した。医療面での配慮が必要な利用者も多くなったため、より専門的な情報共有も必要と考え、看護師や栄養士も参加してのケース会議を開催した。専門的な情報も共有することで、障害特性という側面だけでなく、より利用者全体の状況を捉えることができ、実践の充実につなげることができた。

##### 2. 新規利用や加齢等に伴う利用者像の変化に合わせ、利用者主体の実践となるよう再検討する

- ・高齢の方は、日中活動の中でも見守りをしながら横になって休めるような環境を整備するため、個室空間にベッドを設置したり、活動場所が近くなるよう居室変更も行った。また、各活動班の所属利用者の見直しを行い、利用者一人ひとりの現状に合わせた日中活動の提供にも取り組んだ。利用者の現状を把握し、活動内容を見直すことで、利用者主体の日中活動につながった。

##### 3. 安心・安全な実践を提供できるよう、職員一人ひとりのスキルアップを目指す

- ・利用者状況により、気になることや重点的に知識が必要となることなどをピックアップし、それぞれの専門分野の職員を講師とした勉強会を開催した。今年度は特に健康面での変化が大きい利用者も多かったため医療面での勉強会も開催し、健康面の観察ポイントや清潔ケアの重要性についての知識を深めることができた。また、利用者対応について見直す機会として人権擁護についての勉強会も開催し、一人ひとりが改めて自分自身の実践を振り返る良い機会となった。

#### 第5. 苦情、事故、ヒヤリ・ハット報告

	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	0	22	19

##### 【事故の特徴】

- ・誤嚥による窒息にて死亡された事故があった。その他、転倒、誤薬・抜薬が多かった。

#### 第6. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	岡山県強度行動障害支援者養成研修	1
	岡山県サービス管理責任者研修	1
	全国知的障害福祉関係職員研究大会	1
	岡山県障害者権利擁護セミナー	2
	岡山県知的障害福祉協会「虐待防止研修」	1
	岡山県障害者虐待防止・権利擁護研修	1
事業所内研修	緊急時の対応について	18
	嚥下障害、口腔ケアについて	18
	障害特性について	16
	救急蘇生法	19

# グループハウスかわかみ

## 共同生活援助

### 第1. 利用者概要（令和7年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分：3.7（小数点第2位切り捨て）

(人)	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	その他	計
男性	1	2	4	5	2	0	0	14
女性	1	1	10	2	2	0	0	16
計	2	3	14	7	4	0	0	30

#### 2. 年齢・男女別平均年齢：60.4歳（最年少：20歳、最高齢：95歳）（小数点第2位切り捨て）

(人)	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳~	合計
男性	1	1	3	1	4	2	2	14
女性	2	0	0	3	6	3	2	16
計	3	1	3	4	10	5	4	30

#### 3. 入退所の状況

(人)	新規利用	退所	退所理由
共同生活援助	1	0	

### 第2. 職員配置（令和7年3月31日時点）

(人)	施設長 管理者	サービス 管理責任者	看護師	生活支援員	世話人	計
常勤換算	1	1	0.1	4.4	7.2	13.7

### 第3. 運営方針・重点課題への取り組み

#### 1. ケース会議を通して、利用者に関わる職員で共通した利用者理解、障害理解を行う

- ・毎月ケース会議を開催し、いくつかのケースについては真庭地域生活支援センターも参加してのケース会議を開催した。そのことで実践現場の視点だけではなく、他のサービスの選択肢や病院との連携について新たな気付きもあり、利用者本人に関わる職員で共通認識を持って実践に取り組むことにつながった。その他、日中事業所へ出向き、作業の様子の見学や直接日中事業所職員からの情報収集や情報共有を行うことにより、生活場面だけでは知り得ない新たな本人像を理解することができた。

#### 2. 利用者を障害特性としてだけでなく、個別性に合わせた実践を行う

- ・同じ障害だから同じ実践でいいという意識にならないよう、また、職員一人ひとりが独自の捉え方とならないよう全職員でもう一度利用者自身と障害特性の共通理解を行った。そのことで同じ根拠のもと統一した実践を行うことができ、より個別性に合わせた実践につなげることができた。

#### 3. 利用者の安心・安全な生活を担保し、利用者のニーズにさらに応えられるグループホームを目指す

- ・高齢化が進む中でも日々の生活をより安全に過ごしてもらえよう、介護の資格取得に向け介護技術を学ぶ職員もあった。学んだことは少しずつ日々の生活現場で職員に伝え、安心・安全の向上につなげた。また、生活の中での転倒や転落、ケガにつながるようなリスクについて再点検し、環境整備も行った。利用者のニーズの実現にも取り組み、日々の利用者との会話を大切にしながら、ニーズの汲み取りを行った。得られた情報は職員全体で共有と実現に向けた論議を行い、年齢や今後の生活へのモチベーションなどを考慮して優先順位をつけ、実現することができた。

### 第4. 苦情、事故、ヒヤリ・ハット報告

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット
件数	0	11	18

#### 【事故の特徴】

- ・階段から転落し受傷した事故があった。その他、誤薬・抜薬が多かった。

### 第5. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	強度行動障害支援者養成研修	2
	介護専門職研修（起居・移乗・ポジショニング）	1
	自閉症セミナー	1
	喀痰吸引等研修指導看護師等研修	1
	中国・四国地区知的障害関係職員研究協議会	1
	きょうされん中国ブロック研究交流会	1
	防火管理講習	1
事業所内研修	救急蘇生法	15

# デイセンターひるぜん

## 生活介護・日中一時支援

### 第1. 利用者概要（令和7年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分：4.3（小数点第2位切り捨て）

（人）	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	その他	計
男性	1	5	5	1	1	0	0	13
女性	0	3	3	0	0	0	0	6
計	1	8	8	1	1	0	0	19

#### 2. 年齢・男女別 平均年齢：39.0歳（最年少20歳、最高齢：63歳）（小数点第2位切り捨て）

（人）	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	2	4	4	1	2	0	0	13
女性	2	2	2	0	0	0	0	6
計	4	6	6	1	2	0	0	19

#### 3. 入退所の状況

（人）	新規利用	退所	退所理由
生活介護	1	2	蒜山慶光園生活介護へ移行（2）

### 第2. 作業内容

- ・ペットフードの袋詰め

### 第3. 職員配置（令和7年3月31日時点）

（人）	施設長 管理者	サービス 管理責任者	看護師	生活支援員	計
常勤換算	1	1	0.1	4	4.1

#### 第4. 運営方針・重点課題への取り組み

##### 1. ケース会議でのケースレポート作成を通して、より深く利用者実践に向き合う

- ・毎月ケースレポートをもとにケース会議を開催した。ケースレポートを作成することで、利用者の人生を改めて理解することができ、過去から考えられる現在の支援についても論議することができた。ケースの選定は困難ケースや検討すべき優先順位が高いケースだけでなく、昨年度検討したケースの振り返りも行い、新たな利用者実践につなげることができた。

##### 2. 利用者自身が意思決定できる実践に取り組み、新たな発見につなげる

- ・余暇活動を選択してもらう際、実物や写真、イラストを活用しながら利用者の特性に合った方法で提案を行った。提示だけでは選択が難しい利用者へは、職員と1対1でゆっくりとコミュニケーションをとりながら聞き取りを行った。その中で、重度の障害がある方も写真をしばらくじっと見てから意思表示する姿があり、理解しやすい情報を提供することで迷ったり悩んだりしながら最終的に自己決定できるということも新たな発見となった。利用者と一緒に企画した余暇活動（外出企画）もあり、利用者主体で行きたいところ、したいことができた余暇活動となった。久しぶりの外出であり、利用者もいきいきとした表情だった。

##### 3. 個々の利用者実践と自己を振り返ることで、実践をより深める

- ・外部研修に参加してもらい、意思決定支援や権利擁護を通して利用者とのように関わっていくかということ研修参加者から報告してもらい、考えを深めていくことができた。また、ケース会議や日々の話し合いの中で検討した利用者実践に取り組む中で、利用者に変化があった際には他職員と取り組んだ実践について振り返り、成果の共有を行った。

#### 第5. 苦情、事故、ヒヤリ・ハット報告

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	0	5	19

##### 【事故の特徴】

- ・転倒事故が大半であった。

#### 第6. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	強度行動障害支援者養成研修	1
	岡山県権利擁護セミナー	1
	岡山県知的障害者福祉協会 意思決定支援研修	1
	岡山県虐待防止・権利擁護研修	2
事業所内研修	研修委員会研修	5
	救急蘇生法	6

# ワークスひろぜん

## 就労継続支援B型・日中一時支援

### 第1. 利用者概要（令和7年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分：2.6（小数点第2位切り捨て）

(人)	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	その他	計
男性	1	0	2	4	4	0	3	14
女性	0	0	5	4	1	0	2	12
計	1	0	7	8	5	0	5	26

#### 2. 年齢・男女別平均年齢：53.2歳（最年少：26歳、最高齢：95歳）（小数点第2位切り捨て）

(人)	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	2	0	5	2	2	1	2	14
女性	0	3	2	3	3	1	0	12
計	2	3	7	5	5	2	2	26

#### 3. 入退所の状況

(人)	新規利用	退所	退所理由
就労継続支援B型	3	1	本人の意向

### 第2. 作業内容

- ・室内班：ペットフードの袋詰め
- ・製麺班：麺の製造、販売

### 第3. 職員配置（令和7年3月31日時点）

(人)	施設長 管理者	サービス 管理責任者	生活支援員	職業指導員	目標工賃 達成指導員	計
常勤換算	1	1	3	1.2	1	5.2 (管理者兼務を除く)

#### 第4. 運営方針・重点課題への取り組み

##### 1. 利用者一人ひとりを共通理解し、課題に踏み込んだケース会議を開催する

- ・課題の整理や今後の目標、利用者の方針について確認・論議するケース会議を毎月開催した。職員全員で今後のことを共有することで、同じ視点を持って実践に取り組むことができた。また、記録の方法についても全職員で再確認し、統一した記録内容とした。他事業所との合同ケース会議は開催できなかったが、担当職員が日中事業所からも情報収集を行い全職員で共有することで日中に見えている一場面だけでなく、生活場面も含めて利用者を捉えることにつながった。

##### 2. 事業所に求められるニーズを明確にし、そのニーズを実現できるよう実践を組み立てる

- ・昨年度の作業場・休憩室の改修により安全に移動できる動線も確保でき、より可能な限り「働きたい」という想いに応えられる環境のもと作業を行っている。環境は整ったため、それぞれの今後の方向性に合わせた作業提供となっているかにも目を向け、作業工程の見直しを行うことで安全かつ一人ひとりに合わせた作業提供につながった。息抜きや働く意欲につながるよう調理実習、外出等も行った。参加率も良く、利用者から「また頑張る。」との声を聴くこともできた。

##### 3. 職員が自分の役割を明らかにし、業務を遂行するためにスキルアップを行いながら真摯に向き合う

- ・権利擁護を中心に外部研修に参加し、会議にて全職員に周知した。研修に参加した職員はもちろん、職員全体が日々の利用者対応について振り返る機会となった。日々の業務についても、担当班に所属している利用者実践や作業の進行管理、品質管理を、職員一人ひとりが責任を持って行った。全体でも共有することを大切にし、フォローし合える体制づくりにも取り組んだ。

#### 第5. 月額平均工賃

- ・45,887円

#### 第6. 苦情、事故、ヒヤリ・ハット報告

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	0	2	7

##### 【事故の特徴】

- ・車両に関する事と作業に関する事故であった。

#### 第7. 職員研修

	研修テーマ	参加者(人)
外部研修	きょうされん中国ブロック研究交流会	1
	インターペット大阪	1
	岡山県虐待防止・権利擁護研修	2
	岡山県権利擁護セミナー	1
	強度行動障害支援者養成研修	1
事業所内研修	研修委員会研修	6
	救急蘇生法	6

# グループハウスひるぜん

## 共同生活援助

### 第1. 利用者概要（令和7年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分：3.0（小数点第2位切り捨て）

（人）	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	その他	計
男性	0	0	3	5	5	0	0	13
女性	0	0	3	5	1	0	0	9
計	0	0	6	10	6	0	0	22

#### 2. 年齢・男女別 平均年齢：40.0歳（最年少22歳、最高齢：63歳）（小数点第2位切り捨て）

（人）	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	3	1	8	0	1	0	0	13
女性	2	3	2	2	0	0	0	9
計	5	4	10	2	1	0	0	22

#### 3. 入退所の状況

（人）	新規利用	退所	退所理由
共同生活援助	1	0	

### 第2. 職員配置（令和7年3月31日時点）

（人）	施設長 管理者	サービス 管理責任者	看護師	生活支援員	世話人	計
常勤換算	1	0.8	0.2	2	4.8	8.8

### 第3. 運営方針・重点課題への取り組み

#### 1. 実践を振り返り、利用者の今後の課題や方針について再検討するケース会議を行う

- ・定期的にケース会議を行い、取り組んだ実践の振り返りを行った。利用者との会話から得られた本人の想いや世話人からの情報をケース会議で共有し、支援を継続するか、軌道修正が必要か論議しながら利用者の課題や方針を整理した。振り返りを行うことで実践のやりっぱなしを防ぐことができ、より利用者の現状に合わせた実践につながった。

#### 2. 利用者自身や利用者ニーズにしっかりと向き合えるような体制を再構築する

- ・日中事業所の移行の検討が必要な利用者があり、現日中事業所、移行検討先日中事業所、支援センターと何度も合同ケース会議を開催した。それぞれが持っている情報を出し合い論議することで、利用者に関わる部署全員で共有しながら方向性を導き出すことができた。日々の実践でも、その日その日の状況で重点的に関わる必要のある利用者を決め、日中事業所から帰宅された限られた時間の中でもしっかりと想いを聞くことを、全職員が意識した。

#### 3. 職員一人ひとりが障害についての学びを得ることで、利用者の充実した生活につなげる

- ・外部研修に参加し、学んだことを事業所内で伝達研修を行い知識を深めた。

### 第4. 苦情、事故、ヒヤリ・ハット報告

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット
件数	1	6	1

#### 【苦情】

- ・慶光会の車に煽られたと地域住民からご意見をいただいた。状況を職員へ確認すると、煽ったつもりはないが車間距離が近かったかもしれないということだった。安全運転の徹底と安全運転に関する研修を行った。

#### 【事故の特徴】

- ・車両に関する事故（特に冬季）が多かった。

### 第5. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	中国・四国地区知的障害関係職員研究協議会	1
	喀痰吸引等指導看護師等研修	1
	全国グループホーム等研修会	1
	相談支援従事者初任者研修・サービス管理責任者	1
	特定非営利活動法人やまぼうし学習会	1
	岡山県障害者権利擁護セミナー	1
	強度行動障害支援者養成研修	2
	岡山県障害者虐待防止・擁護研修	1
	障害者虐待防止等研修	1
事業所内研修	救急蘇生法	13

# ワークスくらよし

## 就労継続支援B型

### 第1. 利用者概要（令和7年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分：1.0（小数点第2位切り捨て）

(人)	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	その他	計
男性	0	0	1	3	6	1	19	30
女性	0	0	2	3	1	1	9	16
計	0	0	3	6	7	2	28	46

#### 2. 年齢・男女別 平均年齢：42.1歳（最年少：21歳、最高齢72歳）（小数点第2位切り捨て）

(人)	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	7	6	5	8	3	1	0	30
女性	5	6	1	2	2	0	0	16
計	12	12	6	10	5	1	0	46

#### 3. 入退所の状況

(人)	新規利用	退所	退所理由
就労継続支援B型	12	13	体調不良のため(精神面) (3) 長期に利用されずそのまま退所 (5) 他事業所へ移行 (4) 一般就労 (1)

### 第2. 作業内容

- ・ワークスくらよし：ペットフードの袋詰め、弁当作業、施設外就労
- ・ワークスふくよし：ペットフードの袋詰め

### 第3. 職員配置（令和7年3月31日時点）

(人)	施設長 管理者	サービス 管理責任者	生活支援員	職業指導員	目標工賃 達成指導員	計
常勤換算	1	1	4	2	1	9.0

#### 第4. 運営方針・重点課題への取り組み

1. ケース会議を通して利用者理解を深め、利用者一人ひとりの目標や働き方を受け止められるような実践につなげる
  - ・ケース会議を通して利用者理解を深めるとともに、本人の目標の再確認を行った。本人の現在の状況や情報を出し合いながら課題についても検討し、一人ひとりの想いや特性を考慮したその人に合った作業配置やスキルアップのための実践につなげることができた。毎月の給料支給の際に本人とも目標の再確認と達成のための課題、進捗状況について確認し、目標達成に向けた道筋を本人と一緒に検討する機会となった。
2. 利用者個人の目標に沿った個別支援計画となっているか、個別支援計画に沿った実践ができているかを振り返り、計画を進める（PDCAの実践）
  - ・担当職員を中心に利用者としっかりと話し、現状把握を行った。モニタリングにも担当職員が同席し、普段ゆっくり聴けない想いを聴くよい機会となった。得られた情報をもとに個別支援計画を見直し、実践に取り組んだ。利用者の日々の変化は記録に残すとともに、毎月の会議で共有し、自分達の実践の振り返りと個別支援計画に沿った実践ができているか点検を行った。
3. 利用者のニーズに対応できるよう、障害理解や就労支援について学ぶ
  - ・中国地区の研修に参加し、他法人の取り組みを知ることができた。研修参加後は、事業所内で学んだことを共有し、改めて就労支援について学ぶことができた。各職員が学びたい事や管理者が各職員に必要と思われる研修紹介を行い、所属職員全員が年1回は外部研修に参加し学ぶことができた。研修参加後は必ず伝達研修や勉強会を行い、事業所全体でのスキルアップにつなげた。

#### 第5. 月額平均工賃

- ・平均工賃：55,253円

#### 第6. 苦情、事故、ヒヤリ・ハット報告

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	0	12	2

##### 【事故の特徴】

- ・作業に関する事故が多かった。

#### 第7. 職員研修

	研修テーマ	参加者(人数)
外部研修	食中毒・感染症発生防止研修	1
	きょうされん中国ブロック大会	2
	障害者虐待防止研修①	2
	中四国地区知的障害関係職員研究協議会	1
	障がい者虐待防止・権利擁護公開講座	1
	サービス管理責任者更新研修	1
	障害者虐待防止等研修②	2
事業所内研修	救急蘇生法	8

## デイセンターまにわ

### 生活介護・日中一時支援・就労継続支援A型

#### 第1. 利用者概要（令和7年3月31日時点）

##### 1. 区分・男女別（生活介護） 平均障害支援区分：4.0（小数点第2位切り捨て）

(人)	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	その他	計
男性	1	2	4	2	0	0	0	9
女性	0	1	3	2	0	0	0	6
計	1	3	7	4	0	0	0	15

##### 2. 年齢・男女別

###### (1) 生活介護平均年齢：35.4歳（最年少：24歳、最高齢：45歳）（小数点第2位切り捨て）

(人)	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	2	3	4	0	0	0	0	9
女性	1	3	2	0	0	0	0	6
計	3	6	6	0	0	0	0	15

###### (2) 就労継続支援A型

平均年齢：43.0歳（最年少：22歳、最高齢60歳）（小数点第2位切り捨て）

(人)	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	1	0	2	0	0	0	0	3
女性	0	0	0	0	1	0	0	1
計	1	0	2	0	1	0	0	4

##### 3. 入退所の状況

(人)	新規利用	退所	退所理由
生活介護	0	3	慶光園へ入所（2） グループハウスかわかみへ入所（1）
就労継続支援A型	1	1	就労継続支援B型へ移行

#### 第2. 作業内容

- ・生活介護：ペットフードの箱詰め
- ・就労継続支援A型：ペットフード原料製造、弁当作業・デザート提供

### 第3. 職員配置（令和7年3月31日時点）

#### 1. 生活介護

（人）	施設長・管理者	サービス管理責任者	看護師	支援員	計
常勤換算	1	1	0.2	6.0	8.2

#### 2. 就労継続支援A型

（人）	施設長・管理者 （生活介護兼務）	サービス管理責任者 （生活介護兼務）	生活支援員	職業指導員	計
常勤換算	1	1	0.1	1	3.1

### 第4. 運営方針・重点課題への取り組み

#### 1. 各職員が主体性を持って論議できるケース会議を行う

- ・ケース会議担当者が資料作成から会議の進行まで、ケース会議の運営を行った。そうすることで、受け身ではなく各ケース会議に責任を持って参加することにもつながり、ケース会議参加への姿勢に変化も見られた。ケース会議では、日常的な困りごとの解決に向けた話し合いも行い、職員一人ひとりが問題意識を持って会議に臨むことができた。

#### 2. 利用者の変化やニーズに対応した実践となっているか見極めを行う

- ・利用者の家庭環境の変化や本人のニーズから入所施設やグループホームへ移行した利用者があった。必要に応じて保護者や病院の看護師、訪問看護など関係職員も参加してのケース会議を行い、それぞれの視点を持って論議することで、より本人に合った実践につなげることができた。決まった支援の内容は職員会議で全職員に周知するとともにその都度振り返りを行い、支援の継続や見直しを行った。

#### 3. チームで実践・業務を行っていることを、事業所全体で共通認識する

- ・チームワークやコミュニケーションについての外部研修の参加はなかったが、何か問題が起こった際には一人で抱え込まないよう、普段からのコミュニケーションを大切に、相談しやすい職場環境作りに努めた。そうすることで、日々の小さな利用者の変化も共有することができチーム実践につなげることができた。

### 第5. 苦情、事故、ヒヤリ・ハット報告

（件）	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	0	3	7

#### 【事故の特徴】

- ・事務処理（請求額の入力間違い）に関する事故であった。

### 第6. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	相談支援従事者初任者研修	1
	サービス管理責任者基礎研修	1
	岡山県障害者虐待防止・権利擁護研修	8
事業所内研修	救急蘇生法	4
	支援を行う上で大切にしたい視点と関わり方	8

# グループハウスおちあい

## 共同生活援助

### 第1. 利用者概要（令和7年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分： 2. 0（小数点第2位切り捨て）

（人）	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	その他	計
男性	0	0	0	2	1	0	1	4
女性	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	2	1	0	1	4

#### 2. 年齢・男女別平均年齢： 49. 7歳（最年少： 40歳、最高齢： 66歳）（小数点第2位切り捨て）

（人）	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性	0	0	3	0	1	0	0	4
女性	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	3	0	1	0	0	4

#### 3. 入退所の状況

（人）	新規利用	退所	退所理由
共同生活援助	0	0	

### 第2. 職員配置（令和7年3月31日時点）

（人）	施設長 管理者	サービス 管理責任者	生活支援員	世話人	計
常勤換算	1	1	0. 2	0. 9	3. 1

### 第3. 運営方針・重点課題への取り組み

#### 1. 日中事業所と共通認識を持てるよう、日中事業所のケース会議の内容について情報共有を行う

- ・日中事業所でグループホームに入居している利用者のケース会議が開催された際には、世話人とも情報共有を行い、日中事業所と支援の統一を図った。また、日中事業所とお互いの情報を共有することで、利用者の状況をより深く把握することにつながった。

#### 2. 利用者のニーズを再確認する

- ・利用者一人ひとりと話をする中で、将来一人暮らしを目指している方、現在のグループホームでの生活を続けたい方、彼女が欲しい方など、以前把握していたニーズの他に様々なニーズがあった。ニーズを実現するためには解決すべき課題も多くあり、今後、本人が納得できるような実践に取り組めるよう、一緒に検討していく。

#### 3. 障害特性について改めて知ること、新たな視点を持つ

- ・日中事業所で開催された勉強会の情報提供を行うことで利用者の障害特性を再確認することができ、捉えていた利用者とは違う一面を知ることができた。そのうえで、それぞれの得手不得手を理解し、得意なことは任せて、不得意なことは少しでもできるように日々の生活の中での実践に取り組んだ。

### 第4. リスクマネジメントの取り組み

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット
件数	0	1	0

#### 【事故の特徴】

- ・食後薬を間違えて渡してしまったという事故であった。

# ワークプレイスマにわ

## 就労継続支援B型

### 第1. 利用者概要（令和7年3月31日時点）

#### 1. 区分・男女別 平均障害支援区分：0.3（小数点第2位切り捨て）

（人）	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	その他	計
男性	0	0	1	1	1	0	23	26
女性	0	0	1	1	1	0	23	26
計	0	0	2	2	2	0	46	52

#### 2. 年齢・男女別 平均年齢：44.3歳（最年少：19歳、最高齢：72歳）（小数点第2位切り捨て）

（人）	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	計
男性	6	2	7	5	6	0	0	26
女性	3	8	6	5	3	1	0	26
計	9	10	13	10	9	1	0	52

#### 3. 入退所の状況

（人）	新規利用	退所	退所理由
就労継続支援B型	12	7	一般就労（1）、転出（1） 他法人グループホームの都合（1） 自己都合（4）

### 第2. 作業内容

- ・ワークプレイスマにわ：ペットフードの袋詰め、箱詰め
- ・ワークプレイスつやま：ペット用ボディータオルの製造

### 第3. 職員配置（令和7年3月31日時点）

	施設長 管理者	サービス 管理責任者	生活支援員	職業指導員	目標工賃 達成指導員	計
常勤換算	1	1	4.8	1	1	8.8

#### 第4. 運営方針・重点課題への取り組み

##### 1. 活発な意見交換を行いながら、皆で検討するケース会議を開催する

- ・利用者理解はもちろん、利用者実践までを全職員で検討するケース会議を毎月開催した。会議参加者には一言ずつでも発言してもらえるように意識し、皆で論議することを大切にした。場合によっては外部機関の方にも相談し、頂いた意見も参考にしながら論議を行った。

##### 2. 利用希望の幅広い受け入れができる体制作りを行う

- ・幅広い利用希望に応えられるよう、可能な限り送迎ルートの調整等も行った。新規利用もあったが退所者も多い状況であった。少しでも利用日数や利用時間が増えるよう支援センターとも利用者状況の密な情報共有を行い、協力しながら継続的なアプローチを行ったが、利用日数や利用時間が顕著に増えるということにはつながらなかった。

##### 3. 意識や行動を変化させ、日々レベルアップを目指す

- ・日々の朝礼・夕礼で少しずつ業務についての意見も出てきており、業務改善への意識は高まりつつあるが改善策の検討や実行までには至らなかった。利用者実践については、小さな変化も日々共有することができ、その情報をもとに翌日の関わり方などを検討することもできた。

#### 第5. 月額平均工賃

- ・48,195円

#### 第6. 苦情、事故、ヒヤリ・ハット報告

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	0	3	5

##### 【事故の特徴】

- ・車両に関する事と利用者の給料支給関連の事故であった。

#### 第7. 職員研修

	研修テーマ	参加者(人数)
外部研修	相談支援従事者初任者研修	1
	サービス管理責任者基礎研修	1
	岡山県障害者虐待防止・権利擁護研修	8
	中国・四国地区知的障害関係職員研究協議会	1
	きょうされん中国ブロック研究交流会	1
事業所内研修	救急蘇生法	3
	支援を行う上で大切にしたい視点と関わり方	8

## 真庭地域生活支援センター

### 一般相談支援・特定相談支援・障害児相談支援

#### 第1. 事業概要（令和7年3月31日時点）

##### 1. 相談支援利用人数

・相談支援を利用された障害者等の人数

(人)	実人数	身体 障害	重症心身 障害	知的 障害	精神 障害	発達 障害	高次脳 機能障害	その他	計
障害者 (新規利用者数)	297 (15)	41 (1)	11 (0)	185 (0)	62 (10)	38 (3)	5 (0)	13 (1)	652 (30)
障害児 (新規利用者数)	63 (9)	5 (0)	3 (0)	28 (0)	1 (0)	35 (9)	0 (0)	2 (0)	137 (18)
計	360 (24)	46 (1)	14 (0)	213 (0)	63 (10)	73 (12)	5 (0)	15 (1)	789 (48)

##### 2. 特定相談支援

・サービス等利用計画作成件数（新規・更新作成）

(件)	真庭市	新庄村	岡山県内 (真庭市外)	岡山県外	計
障害者	92	5	29	4	130
障害児	40	0	0	0	40
計	132	5	29	4	170

・継続サービス等利用支援作成件数（モニタリング）

(件)	真庭市	新庄村	岡山県内 (真庭市外)	岡山県外	計
障害者	448	6	35	26	515
障害児	87	0	0	0	87
計	535	6	35	26	602

#### 第2. 相談方法別の件数

訪問	来所	同行	電話 メール	個別支援 会議	連絡調整	その他	計
762	311	82	1,592	137	2,004	14	4,902

### 第3. 支援内容件数（総件数 12,069件）

福祉サービス利用	不安の解消・精神安定	家族関係・人間関係	健康・医療	
3,485	1,392	1,286	2,029	
生活技術	保育・教育	家計・経済	就労	
1,524	469	297	307	
障害者症状の理解	成年後見利用支援事業	社会参加余暇活動	権利擁護	その他
224	26	294	12	724

### 第4. 運営方針・重点課題への取り組み

#### 1. 利用者にあったサービスの紹介や専門的な助言等、専門性を発揮することで利用者の自己決定を支援する

- ・事業所で開催されているケース会議に積極的に参加した。特に入院されていた利用者の退院受け入れの際、本人が利用できるサービスの選択肢等について現場職員へも情報提供を行い、本人にとってどのサービスを利用するのが良いのか現場職員と一緒に実践の方向性を検討することができた。その他、様々な環境の中で利用者自身が自己を見つめ決定して行けるよう、制度やサービスを紹介し専門的な援助を行った。

#### 2. 各機関との連携を強化し、実践の質を高める

- ・医師やソーシャルワーカー、その他関連機関へ日々の利用者変化についての情報提供を積極的に行い、密な連携を行った。それにより相談しやすい関係作りができ、実践上の困りごとの解決にもつなげることができた。また、各支援者ともタイムリーに情報共有を行うことで、支援の統一化を図ることができた。

#### 3. 知識や情報のアップデートを図る

- ・法人内外の研修に参加し、制度やサービスに関する最新の情報の習得に努めた。研修内容は事業所内職員で共有し、各相談にも活かすことができた。今年度は強度行動障害に関する研修にも参加し、強度行動障害について学び直す機会にもなった。

### 第5. 苦情、事故、ヒヤリ・ハット報告

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	0	2	0

#### 【事故の特徴】

- ・業者支払いの見落としなど、事務処理に関する事故であった。

### 第6. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	相談支援専門員初任者研修	1
	相談支援専門員現任研修	2
	強度行動障害支援者養成研修	2
事業所内研修	支援を行う上で大切にしたい視点と関わり方	4

公益事業等

## 川上児童クラブ

### 放課後児童健全育成事業・日中一時支援

#### 第1. 登録児童概要（令和7年3月31日時点）

##### ・学年別

(人)	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
児童数	7	5	5	9	2	3	31

#### 第2. 開所日数

##### ・開所日数と1日の開所時間

	平日	土曜日	長期休暇	計
日数	200日	32日	37日	269日
時間数	3.5時間	10.5時間	10.5時間	

##### ・月別開所日数

(日)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計	25	23	22	25	20	22	25	20	22	20	22	23	269

#### 第3. 運営方針・重点課題への取り組み

##### 1. 小学校内への移転に伴い、場所や利用児童に合った体制や日課を整備する

- ・移転に伴い活動場所も変わったため、児童の様子を職員間で細目に情報共有しながら日課や体制の見直しを行った。今までは建物のすぐ横が外遊びの場であったが、移転後は建物から見えない校庭が外遊び場となったため見守り体制も見直し、安心・安全な活動の提供に努めた。

##### 2. 児童が安心・安全に過ごせる環境を提供しながら、社会性の習得を促す

- ・季節の行事等の充実にも取り組んだ。児童の主体性を大切にするために準備や当日の進行等を任せることで、皆で協力し合って行事を開催することができていた。自分たちが主体となって動くことで、行事開催が楽しいものだけでなく達成感も感じられる機会となった。

#### 第4. 苦情、事故、ヒヤリ・ハット報告

(件)	苦情	事故報告	ヒヤリ・ハット報告
件数	1	0	0

##### 【苦情】

- ・保護者会役員とで行った次年度の受け入れ児童の選考の結果、選考に漏れた保護者から説明や対応が不十分だご意見をいただいた。保護者会長とともに謝罪を行った。今後、受け入れ児童の選考について問題が発生した際には、真庭市にも入ってもらい対応を行うことを真庭市とも確認した。

#### 第5. 職員研修

	研修テーマ	参加者（人数）
外部研修	全国学童指導員学校	2
	真庭市放課後児童支援員合同研修	1
	美作地区ネットワーク研修	1
	岡山県放課後児童支援員研修	1
事業所内研修	研修委員会講習	3

# 福祉有償運送

## 第1. 運営方針・重点課題

### 1. 安全、安心な運送を行う

- ・大きな交通事故・交通違反はともに無かったが、狭い道や雪道などで、バンパーを擦る等の小さな事故はあった。随時、注意喚起を行った。

### 2. 利用者のニーズに迅速に対応する

- ・各事業所に配置されている有償運送運転員にて運行を行い、迅速に対応することができた。

法人本部・部会・事務局

## 事業所統括推進室

### 第1. 運営方針・重点課題

#### 1. 円滑な事業所運営のために必要な新たな提案や助言を行う

- ・法人内事業所を2グループに分けて毎月グループ会議を開催し、その内容は経営委員会でも共有を行った。その場で解決できる検討事項については助言や提案を行い、必要に応じて関連部署との調整も行った。法人として検討が必要な部分については経営委員会で報告し検討を行った。

#### 2. 法人の事業方針・重点課題に沿った事業所運営となるよう、調整を行う

- ・定期的に各事業所の重点課題について達成度と課題について確認を行い、各事業所運営の現状の把握を行った。上手くいかない部分については経営委員も介入した会議を開催し、改善に向けて一緒に取り組んだ。

## 理事長室

### 第1. 運営方針・重点課題

#### 1. 法人が何をすべきかを改めて考え、経営委員会へ今後の展開につながる提案を行う

- ・ワークスふくよしからワークスうつぶきへの移転準備を行った。移転にともない、受け入れ可能な人数も増加し、より多くのニーズを受け止めることができるようになった。また、現状の利用ニーズを捉え受け止めを行うため、地域活動支援センターの展開を提案し、準備を行った。引き続き、利用者・障害者・地域のニーズを受け止められるように努めていく。

#### 2. 地域・外部等とのつながりを大切にし、円滑な法人運営につなげる

- ・定期的に行われる地域のイベント等に参加し、障害理解等の啓発活動や法人を知ってもらえるようアピールし、法人運営の後援等につながるよう努めた。

#### 3. 障害のある方の夢の実現に向けて、スポーツ推進応援団の活動を充実させる

- ・令和6年5月17日に神戸で開催された世界パラ陸上競技選手権大会に、有志の方々での応援団22名で、NPO法人かがやきプロジェクト所属選手の現地応援を行った。実際に競技している姿を見てもらうことで、日々の活動の成果を見てもらう良い機会となった。

## 労働開発室

### 第1. 運営方針・重点課題

#### 1. 法人における就労事業へ、新たな事業提案を行う

- ・就労調整部と連携しながら法人の就労事業の現状の把握を行い、企業との調整により、新たなペットフードの作業を導入することができた。作業内容や作業数も各事業所の現状に見合ったものが提供でき、就労事業の充実につなげることができた。

#### 2. 作業確保を行うことで、安定した作業提供につなげる

- ・作業状況について早めに就労調整部と情報共有したことで、年間を通して安定した作業提供を行うことができた。作業調整についても適宜、就労調整部に提案・助言を行い、課題解決につなげることができた。

## 就労調整部

### 第1. 運営方針・重点課題

#### 1. 蒜山・倉吉の蒜山地域、落合・久世・津山の南部地域に分け、それぞれに拠点を持ちながら各事業所の作業調整を行う

- ・拠点ごとに責任者を配置し作業調整を行った。ただ時間がかかった案件もあり、スムーズな調整を行う事の課題も感じた。

#### 2. 品質の維持・向上に向けて、定期的に作業状況の確認を行う

- ・部員が定期的に各事業所を巡回し品質に関する助言、困り事の対応を行った。

## 実践検討部

### 第1. 運営方針・重点課題

#### 1. ケースの基本を知ってもらい、実践の基礎作りを行う

- ・アセスメント手法、生育歴等、ケース資料に必要な情報収集の方法を学んだうえでケース検討を開催した。ケース会議を行う前に必要な基本について学ぶことができ、基礎力の底上げを図ることができた。また、チーム支援や役割についても学ぶことができた。

#### 2. 各事業所の困難事例について検討する

- ・困難事例ごとに課題を抽出し、課題解決に向けて本人を知る事、専門機関との連携等役割分担を行い困難事例に向き合った。法人外の専門職との連携を図りながら実践についての変化の有無を振り返り再アセスメントを行うことで、新たな実践の組み立てにつなげることができた。

## 生活支援部

### 第1. 運営方針・重点課題

#### 1. 利用者一人ひとりのQOLの向上を目指す

- ・ADL（日常生活動作）低下の見られる利用者へは電動ベッドの導入を行い、利用者と支援者双方にとってより過ごしやすい、より介助しやすい環境を整備した。その他、ADLに変化のあった利用者情報を持ち寄り、より安全で安楽な生活をするためには環境面で何が必要か検討を行い、各事業所へ提案を行った。

#### 2. 利用者が安心・安全に生活できる住環境を検討する

- ・2ヶ月毎に部会を開催し、各生活事業所が年齢や障害特性に合った住環境となっているか意見を出し合い、点検・改善・提案を行った。所属職員では気付かない視点での意見もあり、新たな気づきにもつながった。

## 総務部

### 第1. 運営方針・重点課題

#### 1. 各事業所との連携を密にし、合理的、効率的な事務業務を遂行する

- ・給付費請求業務、各種手続き業務、所轄庁への申請、労務管理業務への助言等を行った。

#### 2. 適切な法人運営のための総務業務を行う

- ・報酬改定など必要な情報収集と分析を行い、情報提供を行った。また、ホームページ等の媒体を活用し、必要な情報開示、情報提供に努めた。その他、法改正や法人規程の改正に合わせ、就業規則、付随規程の改正を行った。

## 経理部

### 第1. 運営方針・重点課題

#### 1. 安定した経営基盤と挑戦・前進を意識した適切な経理業務、情報分析、発信業務を遂行する

- ・月次決算、四半期・半期決算、月ごとの収入推移等のデータを会計責任者、経営等と共有した。それにより各事業所の予算管理や収入目標達成意識の向上、新規事業等に係る予算執行の適正化に資することができた。

#### 2. 今までを当たり前としない、業務システムの適正化、効率化、最新化を推進する

- ・引き続き各事業所とも連携しながら、データ保管箇所の一元化、書式の統一等の手立てを取り、業務の効率化につなげた。
- ・一部事業所の金銭管理業務について意見交換、業務改善提案を行い、実践職員を含む事業所全体の利用者金銭管理システムの変更につなげた。